

北海道議会議員

富山みのり

道政だより 2025年 冬号



■富山みのり道政事務所 〒005-0004 札幌市南区澄川4条1丁目1-43
TEL: 011-813-7733 FAX: 011-813-7778

URL <https://minori-hatakeyama.jp>

■北海道議会民主・道民連合議員会 〒060-0002札幌市中央区北2条西6丁目

Mail minori@minori-hatakeyama.jp



この通信の配布については、郵送・全戸配布・街頭配布等で行っています。

駒岡清掃工場が新しくなりました

札幌市内に3か所ある焼却処理工場のうち、最も古かった駒岡清掃工場が新しい施設として生まれ変わりました。老朽化が進んでいたため2020年から建て替えが行われ、今年8月1日から稼働を開始しています。新しい施設では、焼却炉や燃やせないゴミなどの破砕施設、管理棟なども一新。1日約600トンのごみを処理し、その際に発生する熱を再利用する仕組みを備えています。発電効率は、旧施設の約3倍に向上し、より環境にやさしい省エネルギーな施設となりました。

新工場の特徴

- 発電能力の向上**
ごみを燃やす際に生じる熱を発電に活用し、札幌市内の地下鉄運行に必要な電力供給に役立てています。
- 温水供給**
焼却熱を利用して温水をつくり、真駒内地域に送って暖房や給湯に活用しています。
- 体験型学習施設の充実**
楽しみながら環境について学べる見学コースを新設。ごみ分別ゲームや焼却処理の仕組みを学ぶ体験もできます。
- 騒音・悪臭対策**
工場の周辺環境に配慮し、騒音や振動、においの発生を抑える対策

が徹底されています。地域の皆さんにとってより快適で安心できる施設となりました。

●多目的ルームの新設

災害時には避難所としても利用できる多目的ルームを備えており、地域防災の拠点としての役割も担います。

新しくなった駒岡清掃工場は、単なる「ごみを燃やす場所」ではなく、エネルギーを生み出し、環境について楽しく学べる場にもなり、地域と共に歩む環境拠点へと進化しました。これからも地域の皆さんとともに、持続可能なまちづくりを進めていきます。

ごみの自己搬入

- 受入時間** 月曜日から土曜日
(平日・祝日関係なく)
午前9時～午後4時まで
- 休業日** 日曜日
(1月1日～3日まで)
- 定期整備期間**(毎年5月頃)も受入停止
- 手数料など**
各処理施設で計量後、現金払い
- 搬入方法**
ごみ搬入申込書の提出が必要です



定例道議会報告

北海道議会定例会は年4回、年間約70～90日間開催され、災害対応や緊急議案処理の場合には臨時会が召集される。

第二回定例会

(2025年6月17日～7月4日)

主な審議経過からまとめ

一般会計予算案では、国による高校授業料の無償化に伴い所得制限により就学支援金の対象外の高校生に対し、30億8900万円の臨時支援事業費が計上された。また物価高対策として28億3000万円を追加。2025年度一般会計の総額は補正予算案を加え、3兆564億6900万円となった。

経済と雇用について

知事へは、道民生活等に影響する



予算特別委員会で質問

第三回定例会

(2025年9月6日～10月3日)

主な審議経過からまとめ

鳥獣保護管理法の改正に伴う「緊急銃猟」に関する必要な経費として2.986万円、医療機関の運営費等に対する支援費として22億6,623万円など総額180億5,121万円

富山みのり 活動のひとコマ



9月10日 札幌日本大学高等学校吹奏楽部が議場でコンサート



8月26日 気仙沼千岩田地区太鼓まつりを簾舞で



8月21日 スウェーデン・日本友好議員連盟のメンバーと



10月31日 独立型太陽光発電のモデルを視察



9月30日 予算特別委員会で質問

富山みのりプロフィール

- 1965年11月7日 網走生まれ
- 1984年3月 北海道網走南ヶ丘高等学校卒業
- 1986年3月 北海道武蔵女子短期大学卒業
- 1987年1月 日本電信電話株式会社入社
- 2015年4月 北海道議会議員初当選
- 2019年4月 北海道議会議員2期目当選
- 2023年4月 北海道議会議員3期目当選

- 北海道議会
- 民主・道民連合議員会 政策審議会 会長
- 文教委員会 理事
- 食と観光調査特別委員会 委員

物価高騰対策について

依然として物価上昇の勢いが止まらず、厳しい状況が続いていることから、国の交付金に頼らずこれまでの経済的支援対象外となった方々に対し、速やかな対策を講じるべきと質したが、知事は「地域の皆様や事業の方々からの声に真摯に耳を傾け、国の動向などを注視しつつ、時期を逸することなく対応できるよう取り組む」と答え、国からの影響緩和策への期待を滲ませるのみで、北海道独自の対策を講じる考えがないことが明らかとなった。

ヒグマ対策について

9月1日から施行された緊急銃猟における不安解消に向けた取組及び対策への理解を深めるための「正しい知識」の普及啓発について知事の認識を質したところ、「本定例会に緊急銃猟に伴う市町村の財政負担の軽減のため、補正予算を提案した」また「定例記者会見など様々な機会を通じて情報発信に努める」と答弁した。道警や地元猟友会との理解醸成に基づく対策に尽力するとともに、ヒグマ部門を内包したコールセンターのような苦情窓口の設置などを早急に検討すべきと強く指摘した。

子どもたちの高度な先進医療・リハビリテーション、障がいがある子どもが自立できるような療育まで行っています。



9月3日 手稲区にあるドナルド・マクドナルド・ハウスさつぽろにうかがいました。ドナルドマクドナルドハウスとは、遠距離で子どもの入院・治療に付き添うご家族のための滞在施設です。1974年にアメリカで誕生し、現在は全世界で380か所、日本国内に12か所開設されています。こちらの施設は、主に北海道子ども総合病院・療育センターに入院・通院している20歳未満の患者さんに付き添う家族を対象としており、ボランティアの方々が全面的にサポートしています。庭で育てた野菜を調理するキッチンや明るいダイニングを見学させていただきました。その後、北海道子ども総合病院・療育センター(コドモックル)へ伺い、現在のセンターに至る前の経緯や特徴などの説明を受け、現場を見せていただきました。

周期医療や子どもたちの高度な先進医療・リハビリテーション、障がいがある子どもが自立できるような療育まで行っています。

北海道 安心まちづくりホットライン

あなたのまちの違法開発や建築を見つけたらご連絡ください。

都市計画法や建築基準法などに違反した開発・建築行為は、災害時の危険や生活環境の悪化を招くおそれがあります。



北海道HP 違法開発・違法建築の通報窓口

ドナルド・マクドナルド・ハウス

違法開発や建築を見つけたら

札幌市内をはじめ道内で無許可の大規模開発や違法建築が相次ぎ、大きな問題となったことを受け、北海道は部署間の連携強化と違反行為を早期に発見するため、法に違反した開発・建築の通報窓口『安心まちづくりホットライン』を10月に開設しました。

- ・未許可で土地を造成している(許可番号を掲示していない)
- ・宅地造成に関する安全対策(擁壁・排水など)がとられていない
- ・用途地域に合わない施設を建てている
- ・不法に盛土や残土を搬入している など

右記のような行為は法令違反のおそれがあるので、心当たりのある不審な工事を見かけた方は情報をお寄せ下さい。無秩序なまちづくりを防ぎ、安全な住環境を維持するためにもご協力をお願いいたします。

精進川サクラマス観察会

10月13日 豊平川の支流にあたる精進川で開催された「サクラマス遡上及び施設の現地観察会」に参加しました。今回の観察会は、澄川地区にほど近い平岸の精進川河畔公園南側に位置する精進川の滝をスタート地点とし、川沿いを南方向にゆっくり歩きながら自然環境を学ぶものです。

精進川の滝は小さな滝ですが、サクラマスが滝を登ろうとする姿を見られることもあり、浅瀬のため肉眼でも観察がしやすく、子どもたちや市民にとって身近な自然学習スポットにもなっています。

この日は、札幌市豊平川さけ科学館の中村先生や元水産資源研究所にいらした大熊先生も参加され、川底に適切な礫(れき=小さな石)がなければ産卵が難しいこと、また魚が通過しづらい箇所に簡易魚道を設置することで遡上数が増えた事例があることなど、生体に関する詳細な説明を伺いました。こうした取り組みが、都市部における貴重な自然環境を守る上で重要であることを改めて感じました。

精進川で見たサクラマスは約40cmと、川が浅いため小さめとのことですが、身近な川で自然の営みが続いている



サクラマスの魚道について説明をする豊平川さけ科学館の中村先生

ことを知り、地域の自然環境保全の大切さを実感する機会となりました。

今後も市民の皆さまと、地域の自然を次の世代につなげる取り組みを応援していきたいと思えます。

道政報告会

今年の道政報告会は10月11日(土)に開催されました。来賓として道下衆議、勝部参議、あおい市議が駆けつけてくださり、参加して下さった皆様へのご挨拶とともに、日頃からの温かいご支援への感謝が述べられました。

報告会では畠山みのり道議より予算編成の方向性や道政全般に関する現状について説明がありました。

泊原発の再稼働については、万が一事故が起きた場合の避難が現実に可能なのか、どこまで安全が確保されているのか、といった不安が依然として根強くあります。また、会場の参加者からも「もっとわかりやすい情報提供がしてほしい」「住民の目線に立った避難計画の再検討を進めてほしい」などの声が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

これからも地域の皆さまの声を受け止め、道政に反映させていくために対話の機会を大切にしていきたいと思えます。

安心して暮らせる北海道をつくるために、引き続きご意見をお寄せいただければ幸いです。

世界早産児デー in 北海道

11月17日は世界早産児デーです。世界中で、早産により直面する課題や負担に対する理解を深めることを目的に、2008年にヨーロッパで制定されました。早産児とは在胎37週未満で出生した赤ちゃんのことを指し、日本では20人に1人が早産で生まれています。(2023年人口動態調査)

しかし、世界早産児デーの認知度は当事者で96%と高い一方、非当事者ではわずか12.8%にとどまり、大きな差があります。

こうした認知向上の取り組みとして活動が続いている「北海道リトルベビーサークルゆきんこ」が企画したパネル展示が10月14日に開催されました。小さく生まれた赤ちゃんの成長記録や小さなオムツなどの展示のほか、NICUで実際に使用している保育器(温度・湿度・酸素濃度が精密にコントロールできる)の展示もあり、現代医療が新しい命を力強く支えていることを実感しました。

また、実際に小さく生まれた赤ちゃんを育てているご夫婦が展示に足を止め、サークル代表の方とお話される場面もあり、多くの関心を集めていました。



早産児専用保育器

澄川3条3丁目交差点の信号

平岸通と福住・桑園通が交わるこの交差点は、人も車も多く、日頃から賑わいのある場所です。歩者分離式信号になっていますが、青信号で渡り始めても横断途中で点滅に変わってしまう、急いで渡らなければならぬ場面をよく見かけます。

以前から「歩行者用の青信号が少し短いのではないか」という声を地域の方からいただいております。私自身も気になっていました。近くには病院もあり高齢者の方の姿も多く見られるため、転倒などの事故が心配でした。

そこで道警の方に相談したところ、調査を経て、歩行者側の青信号を3秒延ばす設定に切り替えていただけることになりました。地域の実情を踏まえて対応していただけたことに感謝しています。

これにより皆さまが少しでもゆとりをもって横断できるようになれば嬉しく思います。

これからも地域の安全と安心につながる取り組みに努めてまいります。

